

**【小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）素案】  
 市民説明会で寄せられた意見とその対応等（案）**

1 実施の概要

- (1) 期 間 平成29年10月24日（火）～同年11月4日（土）（全12回）
- (2) 参加者数 843名（全12回延べ参加者数）
- (3) 意見者数 7名（全12回延べ意見者数）

2 意見等と対応（案）

健康センター 視聴覚室（平成29年10月24日（火） 午後7時～8時31分）

意見等	検討結果	分類	対応
<p>小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）素案の数値目標のところ、平成28年度で小平市の資源ごみとごみの合計が732gになっていますが、これが小平市家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行実施計画（素案）の目標のほうから見ると650gになっているんです。これは平成27年度なのですが、たった1年度でずいぶん数値が違うのではないかと。目標は、34年で640gになっているけど、これがもし、小平市家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行実施計画（素案）の650gだったら、たった10g減らすような数値の話になってしまう。このへんの資料の整合性をちゃんとしてくださいということです。</p>	<p>小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）素案の数値目標の実績値につきましては、平成28年度は732g/人日となっております。こちらの数値は、事業者が施設に直接持ち込むごみを含めた数値を示しております。一方、650g/人日は、事業者が施設に直接持ち込むごみを除いた数値を示しており、こちらは数値目標の実績値とは異なるものです。</p>	数値目標	参考

大沼公民館 ホール（平成29年10月27日（金） 午後2時～3時30分）

意見等	検討結果	分類	対応
<p>数値目標について、これまでと同じように、どんどん小平市のごみが減っていくという数値目標を立てられていますが、有料化による効果として、10%～20%ごみが減量するという山谷先生の調査があるということができています。そうしますと、今、小平市のごみは、自然に減って、そのままでも減ってきているんだけど、これから有料化することによって更に10%ぐっと減るといふ風に質的な変化が起きると思うので、減量が起きると思うので、もっとこの数値目標を下げることもできるのではないかと考えておりました、ずっと私も言ってきましたけれども、そのことについてご意見を伺いたいと思います。</p>	<p>数値目標につきましては、計画策定時（平成26年3月）以降、平成26年度から平成28年度までの減量実績と今後実施する家庭ごみ有料化などの施策による減量効果を踏まえ、ごみ・資源物量の推計を行った上で、設定しております。</p>	数値目標	参考

意見等	検討結果	分類	対応
<p>まずお聞きしたいことは、簡単に言えばごみを少なくすることが最大のメインだというふうに理解はするのですが、その手段として、有料化あるいは戸別収集がベストの選択なのかははなはだ疑問に感じています。</p> <p>まず、5ページ目の15%以上減量という数値目標の説明の中で、事業用も含めているというようにことをちらっと言われたような気がしたのですが、あくまで家庭用のごみを対象に考えていくべきものを、なぜ事業用が出てくるのか。事業用は有料でまた別個にあるのではないかというふうに理解しているのですが、そのへんがちょっと分からないのでお示しいただきたい。</p>	<p>市ではこれまで、様々なごみ減量施策に取り組み、市民の皆様にご協力いただきながら、着実にごみの減量を推進してきました。</p> <p>しかしながら、現在、最終処分場の延命措置、ごみ処理施設更新に伴う施設周辺住民への配慮や費用削減のために施設規模を小さくする必要があること、また、新しい焼却施設の更新に伴う、工事期間中の他団体へのごみ処理の支援要請が不可欠となることなどの課題があり、あらゆる施策を講じて、更なるごみ減量に取り組む必要が生じております。</p> <p>また、ごみを減量することにより、ごみの収集や処理にかかる経費が削減できるものと考えております。</p> <p>そのため、市では家庭ごみ有料化を実施することで更なるごみの減量を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>また、市で発生する廃棄物の多くは家庭からのものですが、事業所から排出される事業系一般廃棄物への対策についても減量の取組が求められており、小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）素案では、数値目標に事業用のごみ量も含めております。</p>	数値目標	参考

意見等	検討結果	分類	対応
<p>数値目標についてお伺いしますが、排出物原単位は従来の計画では10%だったのを15%以上減に見直しをしています。ところが、処理ごみ量原単位は、もとの計画を見直ししてなくて、20%減がそのままですね。ですから、この2012年から16年までの4年間で、当初考えていた以上に減量が進んでいるので、排出物原単位は減らしたのだと思うのですが、どうして、処理ごみ量原単位は見直しをしていないのか、ということですね。いま、小村大の方の焼却施設を建て替える計画が進んでいます。その規模を決める基礎になるのは、この処理ごみ量原単位なんですね。ですから、これを見直さないと、いま考えている新しい焼却施設の規模が決まらないわけですから、早急に、処理ごみ量原単位がどれだけ減っているのか見直さないと、新しい焼却施設の規模が決められないわけですね。ですから、排出物原単位は以前より減らすようにしたのに、処理ごみの方はそのままというのは、ちょっと納得いかないのですが、その点はどうか。</p>	<p>数値目標につきましては、計画策定時（平成26年3月）以降、平成26年度から平成28年度までの減量実績と今後実施する家庭ごみ有料化などの施策による減量効果を踏まえ、ごみ・資源物量の推計を行った上で、設定しております。</p> <p>なお、処理ごみ量原単位につきましては、今後実施する家庭ごみ有料化などの施策による、ごみの減量、分別の徹底などの効果も踏まえ、資源物を含む排出物原単位の数値目標より高く設定しております。</p>	数値目標	参考

中央公民館 ホール（平成29年11月4日（土） 午後7時～8時33分）

意見等	検討結果	分類	対応
<p>目標値のところですが、実績はどうなっていますか。</p>	<p>平成28年度の実績につきまして、市民一人一日当たりのごみと資源物の総量を示す排出物原単位は、732g/人日、市民一人一日当たりのごみのみの量を示す処理ごみ量原単位は、560g/人日となっております。</p>	<p>数値目標</p>	<p>参考</p>
<p>災害時のごみの件でございますが、具体的には、どこへこれだけ大量のごみを、どのようなかたちで一時保管するのか、一時保管場所を考えていらっしゃるのか。</p>	<p>災害廃棄物の大量発生が予想される場合は、仮置場を設置する必要があります。 仮置場につきましては、市有地を中心に、近隣市の広域連携も含めて仮置場としての利用可能性について検討してまいります。</p>	<p>災害廃棄物処理計画</p>	<p>参考</p>

鈴木公民館 ホール（平成29年11月4日（土） 午後2時～3時37分）

意見等	検討結果	分類	対応
<p>災害の種類に火山灰が入っていないのですが、こちらの方はどういう風なお考えなのでしょう。火山灰については、水に流れなかったり、水を含むと重量が重くなったりしてしまうというので、そこらへんはどういう風に考えておられるのか。</p>	<p>小平市災害廃棄物処理計画の対象は、震災及び巨大な風水害としております。 火山灰につきましては、震災等に準じて、仮置場などを確保するとともに、より広域的な処理の枠組についても検討してまいります。</p>	<p>災害廃棄物処理計画</p>	<p>参考</p>